

2020年度オープンダイアログ巡回学習会in鎌倉 2020年10月17日 鎌倉市福祉センター

「オープンダイアログから学ぶこと～心が通う対話とは～」

アンケート結果

参加者数	45名	会場 27名	オンライン 18名
アンケート回収数	29	会場 21	オンライン 8

参加者の居住地	鎌倉市	逗子市	葉山町	横須賀市	藤沢市	平塚市	海老名市	秦野市	小田原市	横浜市
	7	4	7	1	1	1	1	1	2	4

参加者の年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
	0	1	2	4	6	16	0

参加者の立場	家族	当事者	医療関係	福祉関係	行政関係	その他	(複数回答あり)
	24	1	1	4	0	0	

講演会を何で知ったか	家族会	家族会会報	じんかれん ニュース	案内状	じんかれん ホームページ	その他	(複数回答あり)
	16	6	5	2	1	2	

講演会に参加して	良かった	普通	あまり良くなかった	記入無し
	26	2	0	1

【特に、心に残る場面・言葉】

- ・対話のデモンストレーションの、皆様との対話のひとつひとつ。
- ・デモンストレーションで、コミュニケーションの取れない娘と共に赤ちゃん時代からの写真を見たこと。
- ・心の対話
- ・解決するためではなく、それぞれが語る空間を作っていく、オープンダイアログの基を知りました。
- ・オープンダイアログが、当事者中心であるということ。本人の希望や気持ちを大事にすることが素晴らしいと思う。
- ・Aさんの娘さんの良くなられた話。すばらしいことで、嬉しいです。やはり、愛は寛容で情け深い。心と心の真の対話が大切。
- ・「答のない不確かな状況に耐える。」
- ・「精神の病とは何なのか、考えていくこと。」
- ・参加しているうちに、自然に自分自身のリフレクションが出来ました。Aさんのお話が、自分の家族と重なり心が温まりました。
- ・家族関係の大切さ。共有するということ。
- ・「じんかれんは、家族の声を聴いて、それを社会に発信して欲しい。」
- ・「2人でチームを組む。」「本人のいないところで話さない」
- ・何をもって病気が良くなるとするかが、本人にとってと周りの人にとってと違うことがある。
- 対話すること自体に意味がある。
- ・訪問看護の中でオープンダイアログが行われていると知ったこと。
- 「習得した人がいない」について。意外に難しいことなのだろうと知る。1984年から36年過ぎているがほとんど進歩がなされていないのだなあ、と。
- ・「安心」
- ・デモンストレーション。話を聞いて欲しい人の話を引き出したことに感動した。
- ・病とは何か、考えさせられた。
- 語る本人を主役として、話し合いも本人抜きで話し合わないということが素晴らしい。
- ・三ツ井氏がオープンダイアログの性格について語ったとき。
- ・三ツ井さん始め皆様が終始優しい言葉と思いやり溢れる雰囲気でした。
- ODのデモンストレーションも心のやり取りがなされていて素敵でした。
- ・Aさんの言葉「アルバムを見せると、コミュニケーションは取れなくても、父がどう関わって来たのか、いかにかわいがってくれたのかということが伝わった」
- ・娘さんの”おいたちのアルバム”を通じての親子の会話（OD）により母親の愛情で、娘さんはトラウマから解放され親子の信頼と絆が復活。素晴らしい内容に感動しました。

